

知らなきゃ損する



歯のはなし

羽生市木村歯科医院HPにて
バックナンバー掲載中!!



木村 匡司

① 歯の最終治療を

たが、その後世情も変化し、歯科界についてもお話ししたいことが出てきましたのでコラムを復活させていたたくことになりました。

日本は65歳以上の老年人口(高齢者)が増大した社会「高齢化社会」に突入し、1994年に高齢社会、2007年に超高齢社会へと突入しました。そして、今後も高齢者率は年々増大すると見られています。

一方、はるか昔1961年に国民すべてに平等な医療が行き届くよう定められた「国民皆保険制度」は、診療の目的が必ず最低限の医療を提供することであるため、快適でおいしく噛める治療を行うにはほど遠い制度となってしまうました。

折角若いときに頑張っ

て仕事をできて保険料も払ってきたのに、いざしっかり治そうと思っても最低限の治療しか施されず、むしろ噛めることが健康の源と思っている私としては、精神的にもガッカリとした人生を送ることになる気がしてなりません。歯科医師側にも保険の制約の中で診療を行うには、限られた時間や指定の材料に厳しさ



10年、20年後もおいしく!

が増しています。

前述のように国民皆保険制度から約60年がたち超高齢社会に突入し、仕事が一段落した年齢からも新たな人生が送れるようになりました。

今まで働いてきたご褒美として、できれば健康で長生きできる時代が来たのです。今までのとりあえずの治療ではなく、5年、10年先までの治療でもなく、10年、20年先までの治療を受けた時代が来たのです。寝たきりのまま10年、20年生きるためではなく、自分の口で噛み応えがあるものをおいしく食べ、自ら歩ける生活を送れることが幸せな人生なのではないかと感じています。

それではいつ治すのでしょうか?

噛めることが健康で快適な暮らしを支え、健康寿命を長くするにはどうしたらよいでしょうか?

私はどこかで最終治療を行ってほしいと思えます。最終治療とは10年、20年先までは状況に応じて管理でき、噛む機能を維持させる可能性が高い治療と思っています。寝たきりになっても快適にと介護保険などで急速に整備はされていると思えますし、訪問診療も定着しつつありますが、訪問診療ではおいしく噛めるまでの対応は難しいのが現状です。

「寝たきりで10年、20年を快適に」ではなく、「おいしく噛めて自分で歩ける老後」をできる限り長く送りたいとは思いませんか?